

〈最優秀賞〉「幻の成人式」林 春男

成人した娘の晴れ着姿を撮ろうと、田んぼでの家族総出の撮影会となりました。明るい陽光をいっぱいを受けた振り袖姿の娘さん。見守る家族の姿が何とも温かく、成人になった末っ子への愛情が微笑ましく伝わってきます。まさしくこの日はこの娘さんのための祝いの日。成人式は中止となっても、この家族に育まれた娘さんを、山も田んぼも、空も、雲も、そして振り袖を揺らす風さえもが祝っているようです。

〈朝日新聞社賞〉「どこ行くの？」音喜多信也

くみ上げポンプの水が出しっぱなしの路地。赤い首輪をつけた猫が飛び出して来た先に黒猫が…。なんでもない路地なのですが、どこか緊張した雰囲気を感じられる光景です。水飲み場の四角のコンクリートが大胆に切り取られ、使い古したリヤカーが傾き、路地の向こうには黒雲が流れていきます。単なる路地のスナップにしないで、小さなドラマを創り上げた作者の感性が素晴らしいですね。

〈全日本写真連盟賞〉「告白」青山益登

本当に「告白」だったのでしょうか。ちょっとしょんぼりした雰囲気の男の子。それに比べて、底抜けの笑い声が聞こえて来そうな女の子。畑では激しい炎が…。二人の間に何があったのでしょうか？青春（と言っては幼すぎますが）ドラマの一場面のようにとらえた作者のこれは「ユーモア」なのかもしれません。それにしても、この男の子の「せつなさ」がよくわかります。

〈優秀賞〉「藁馬行列」早川千芳

藁馬を作り、小さな子どもにも手綱を引かせ、鉦をついて行列が行く。藁馬奉納の行列でしょうか。マスクをした大人たちが見守りながらの行列です。画面のなかに大勢の人がひしめくようにとらえられたその圧縮感がこの人々の強い意志や願いを現しているようで効果的でした。

〈優秀賞〉「霧の夜明け」内山卿子

美しく深い霧に包まれた村の夜明けです。家々や森が刻々と浮かび上がってきます。そのどこまでも広がる光景が、手前に実の残った柿の枝を入れることでふっと触れられそうな、身近なものになりました。晴れていく霧の中に立ち現れてくる人々の真摯な暮らしぶりを感じさせる作品になっています。

〈優秀賞〉「火渡り護摩…点火…」田中孝一

杉の葉の山に点火され、今、すぐにも燃え上がろうかという瞬間、静まる光景の中に生まれる緊張感が描かれています。白い煙が周囲のものを消し、美しいまでにタイミングよくとら

えられた山伏の姿が浮かび上がっています。左上にわずかに残った赤いモミジの葉も効果的です。

《総評》

生活に根差した深い内容の写真がたくさんありました。写真がただ美しさを求めるものではないということを、皆さんの写真から学ばせていただいたという思いでいっぱいです。さすがに上位に来た作品は、作者の郷土愛、人間愛に溢れるものでした。また、仕上がりのプリントも大変きれいで、見ごたえのあるものでした。入賞されなかった作品でも、思わず見入ってしまうものもありました。いろいろな題材に挑戦して、ますます自分の「写真」という枠を広げていってほしいと願っています。